歯牙エナメル上皮腫の1例

石井宏昭・郷家久道・佐々木眞一

松本康博・松浦正朗・瀬戸暁一

A case of odontoameloblastoma of the mandible

Hiroaki ISHII・Hisamichi GOHKE・Shinichi SASAKI

Yasuhiro MATSUMOTO・Masaroh MATSUURA・Kanichi SETO

Abstract: We report a case of odontoameloblastoma arising in the mandibular molar region of a 26-year-old woman. The patient presented with a chief complaint of swelling at the molar region on the left side of the mandible. Radiographic examination showed an unilocular radiolucent area at the molar region of the left side of the mandible. Impacted teeth were found in this region. The tumor was enucleated in a single mass, along with the impacted teeth, under total anesthesia. The histopathological diagnosis was an odontoameloblastoma. As of six years after the operation, the patient's prognosis has been good.

Key words: odontoameloblastoma (歯牙エナメル上皮腫), ameloblastoma (エナメル上皮腫), mandible (下顎骨)

緒 言

歯牙エナメル上皮腫は歯胚の上皮成分と間葉成分の両者から構成される歯原性の混合腫瘍で、エナメル上皮腫類似の上皮成分に、象牙質およびエナメル質などの歯の硬組織の形成を伴ったまれな腫瘍である。

われわれは、26歳、女性の左側下顎に発生した本症を経験したので報告する。

症 例

患 者：26歳，女性。

初 診：平成元年6月■日。

主 訴：左下顎臼歯部の腫脹。

既往歴，家族歴：特記事項なし。

現病歴：平成元年5月初めより左下顎臼歯部の腫脹を自覚し，5月■日近医歯科を受診。投薬受けるも症状軽減しないため精査を目的として当科を紹介されて来院した。

現 症：口腔内所見として，「3～7」の歯肉頬移行部に中等度の腫脹があり，「4」部頬側歯肉に波動感を認めた。「5」は未萌出で，「E」は残根状態で残存し，「4E6」に動揺を認めた。電気歯髄診を行ったところ「4E」は反応陰性であった。

顔貌所見では左下顎に軽度の腫脹を認めた。

X線所見：パノラマX線写真において左下顎臼歯部に周囲との境界明瞭な単房性，類円形の透過像があり，その内部には埋伏歯を認めた。また，「4E」の歯根吸収が著明であった(写真1)。

臨床診断：エナメル上皮腫または含歯性嚢胞。

処置および経過：初診当日，局所麻酔下で生検を施行したところ病理組織診断はエナメル上皮腫であった。そこで，平成元年7月■日，GOE全麻下で腫瘍摘出術を施行した。まず，「4E」を抜歯し，ついで「3～7」の頬側歯肉骨膜弁を剥離して菲薄な骨を除去し，腫瘍を埋伏歯とともに一塊として摘出した。創腔にはテトラサイクリン軟膏ガーゼを充填し開放創とした。

摘出物所見：摘出物は灰白色と赤褐色の混在した径20mmの類球形の表面滑沢な腫瘤で，周囲に被膜を有していた。埋伏歯は，ほぼ正常な下顎小白歯の歯冠形態を呈しており歯根は腫瘤外に突出していた(写真2)。

鶴見大学歯学部第一口腔外科学教室
(主任：瀬戸暁一教授)

First Department of Oral and Maxillofacial Surgery, School of Dental Medicine, Tsurumi University (Chief: Prof. Kanichi Seto)

受付日：平成7年10月26日

写真1 初診時パノラマX線写真
*印の部位に硬組織の形成が認められた

写真3 病理組織像(弱拡大, H-E 染色)
エナメル上皮腫の像を呈している

写真2 摘出物写真
埋伏歯の歯根は腫瘍外に突出している

写真4 病理組織像(強拡大, H-E 染色)
D: 象牙質
E: エナメル質

表1 歯牙エナメル上皮腫の報告例

No	報告者	報告年	年齢	性別	発生部位	形成されていた硬組織
1	河野ら	1975	12	男	下顎前歯	E D
2	森ら	1976	25	男	上顎前歯	E D
3	森ら	1976	26	男	下顎臼歯	E D
4	永井ら	1976	13	男	上顎前歯	E D
5	藤波ら	1977	76	女	下顎前歯	D P
6	黒柳ら	1977	13	女	下顎臼歯	E D C
7	Labriola, et al.	1980	25	男	上顎臼歯	D C P
8	小倉ら	1981	30	男	下顎臼歯	D C
9	中谷ら	1982	11	女	下顎臼歯	E D P
10	Gupta, et al.	1986	50	男	下顎臼歯	E D
11	Takeda, et al.	1989	11	女	上顎前歯	E D
12	Tompson, et al.	1990	34	女	下顎前歯	不 明
13	石井ら	1992	26	女	下顎臼歯	E D

(E: エナメル質, D: 象牙質, C: セメント質, P: 歯髄)

病理組織学的所見: 腫瘍細胞は索状に増殖し, 生検標本と同様のエナメル上皮腫の像を呈しており, 間質には嚢胞の形成が認められた. また, 被膜への腫瘍浸潤は認められなかった(写真3). 摘出組織の一部(写真1の*印の部位)に, エオジンに濃染した硬組織と

思われる部分が認められた. 硬組織の大部分は不規則な象牙質の形成からなり, その一部にはエナメル基質の形成が認められた. また, 不規則な象牙質の一部には象牙細管様構造も観察され, エナメル基質には部分的に規則的な小柱構造も認められた(写真4).

病理組織診断：歯牙エナメル上皮腫

現在、術後6年経過し再発傾向もなく経過観察中である。

考 察

歯牙エナメル上皮腫に相当する腫瘍は、以前には、単純性歯牙腫、軟性歯牙腫あるいはエナメル上皮腫の1型などと呼ばれていたが、1950年代よりエナメル上皮歯牙腫という呼称が広く用いられ、内外で約30例報告されている¹⁾。しかしながら、1971年WHOの口腔腫瘍分類²⁾においてエナメル上皮歯牙腫 (ameloblastic odontoma) は、エナメル上皮線維歯牙腫 (ameloblastic fibro-odontoma) と歯牙エナメル上皮腫 (odonto-ameloblastoma) に分類された。

その際、エナメル上皮線維歯牙腫はエナメル上皮線維腫の一般的特徴をもち、かつ、象牙質とエナメル質を含んでいる腫瘍と定義された。一方、歯牙エナメル上皮腫はエナメル質と象牙質が存在し、構造と性質がエナメル上皮腫に類似した歯原性上皮をもつ、きわめてまれな腫瘍であると定義されている。

われわれが渉猟し得た、1971年以降の報告論文を検索すると表1のごとく自験例を含めて13例であった。

性別は男性7例、女性6例で性差はなく、平均年齢は27.1歳(11~76歳)で藤波ら³⁾の76歳、Guptaら⁴⁾の50歳をのぞき比較的若年に好発する傾向が見られた。発生部位は上顎4例、下顎9例で、特に下顎臼歯部が7例と多かった。

治療法は、完全摘出により一般に良好とされている⁵⁾。しかし、本腫瘍はエナメル上皮腫と同様の局所浸潤性を有し、再発の頻度も高く悪性化の報告もあり⁶⁾、最も効果的な治療法は周囲の骨を含む一塊切除、すなわちエナメル上皮腫に準じた根治的手術療法が推奨されている^{4, 7)}。

本例では患者は若年で、腫瘍は下顎の比較的前方に位置し、かつ、単房性であることから腫瘍の摘出のみを行い経過は良好であるが引き続き注意深い経過観察が必要と考えている。

結 語

26歳、女性の下顎臼歯部に発生した歯牙エナメル上皮腫の1例を経験したので若干の文献的考察を加え報告した。

本論文の要旨は第152回日本口腔外科学会関東地方会(平成4年2月、東京)において発表した。

引 用 文 献

- 1) 森 喜郎, 吉田正彦, 他: Odonto-ameloblastoma の2症例と文献的考察. 日口外誌 22: 575-584 1976.
- 2) Pindborg, J.J., et al.: Histological typing of odontogenic tumors, jaw cysts, and allied lesions. W.H.O., Geneva, 1971.
- 3) 藤波好文, 川平清秀, 他: Peripheral ameloblastic odontoma の1例. 口科誌 28: 301-305 1975.
- 4) Gupta, D.S. and Gupta, M.K.: Odonto-ameloblastoma. J Oral Maxillofac Surg 44: 146-148, 1986.
- 5) 中谷俊彦, 高橋健一, 他: 上顎に発生した Odontoameloblastoma の1例. 耳鼻臨床 75: 1371-1376, 1982.
- 6) 石木哲男, 富田喜内: 悪性転化をきたした下顎エナメル上皮歯牙腫の1例. 口科誌 14: 239-240, 1965.
- 7) Tompson, I.O.C., Phillips, V. M., et al: Odontoameloblastoma: a case report. Br J Oral Maxillofac Surg 28: 347-349, 1990.